

本時のねらい

- 自分の泳ぎの動作を客観的に捉え、どうすれば良くなるかを考え、動作の改善につなげる。
- 互いの泳ぎの動画を見ながら意見交流を行い、コミュニケーションスキルのアップをはかりつつ他者の意見をふまえて改善点を考える。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- プールで泳いでいる姿を動画に撮影し確認することで、自分の泳ぎのフォームの改善点を考えることができる。
- 動画を見ながら改善点を意見交流することで、自分の意見に他者の意見を反映したり、自分の意見を確認したりすることができる。
- 改善前と改善後の泳ぎの動画を見比べることで、改善点がどう活かされたのかを比較することができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- NHK for School
- 大型モニタ
- iPad (動画撮影機能)

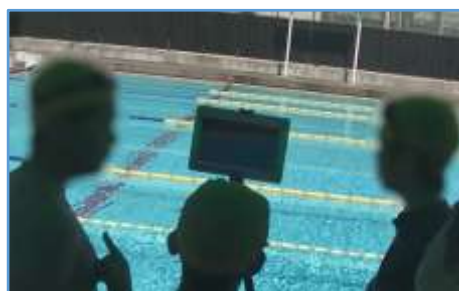
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○支援学級で、本時の目標「ビート板のばた足キックで25m泳ぐ」を伝え、ばた足の動画教材を視聴する。 ○プールに移動し、準備体操を行う。 ○本時の内容「プールサイドから泳ぎを動画撮影し、みんなで撮影内容を見て動きのポイントを意見交流しながら練習する」ことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○NHK for School「ばた足 できるポイント (水泳ノ介)」を視聴する。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○プールに入りビート板のばた足キックの泳ぎを練習する。プールサイドからは、泳ぎの様子を撮影する。【写真1】 ○プールから上がり、撮影した動画を見て自分の泳ぎの動作について考える。 ○他者の泳ぎを撮影した動画も見ながら、良いポイントと改善できるポイントを交流し、自分の泳ぎの動作で改善する点を決定する。【写真2】 ○泳ぎの練習の撮影と、撮影動画を見てポイントの意見交流を繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの泳ぎの動作を客観的に確認することができ、注意すべきポイントを何度も繰り返し見ることができる。 ○自らの泳ぎと他者の泳ぎを比較することが容易で、参考にするべき動きや改善するべき動きを確認しやすい。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時に練習した泳ぎについて、自分が意識して練習してできるようになった内容を振り返る。【写真3】 	<ul style="list-style-type: none"> ○泳ぎのフォームで改善した点や意識した点を動画で記録する。記録した動画は、次回の練習の際に見返すようにする。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真1】泳ぎの練習をプールサイドから撮影している様子



【写真2】撮影した動画を見ながら泳ぎのポイントを意見交流している様子



【写真3】練習で意識したこと、改善したことをiPadに記録している様子

児童生徒の反応や変容

- iPadで泳ぎの姿を動画撮影してすぐに客観的に観察できるメリットは大きく、良い点や改善すべき点を確認しながら意見交流することができた。
- 自分が泳いでいる動画を見ることで具体的な課題が分かり、他者の泳いでいる動画を見て比較することで改善イメージをもって練習を繰り返すことができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- 体育実技でフォーム改善を行う際、従来では難しかった「自分のフォームを客観的に観察する」ことがiPadにより可能となった。従来だと口頭説明を繰り返したり、指導者が動きを見せたりということを行っていたが、動画を見ることで生徒も納得感をもって改善策を考えることができた。
- 普段は自分の考えを言葉にして相手に伝えることが苦手な生徒たちも、動画を見ながら意見交流する場面では互いの考えを出し合いながら改善をめざし、目標達成しようとする姿が見られた。